

4月園だより

平成 21 年 4 月 8 日

社会福祉法人交北会
青 桐 保 育 園
072-855-3916

ご入園、ご進級おめでとうございます。

保育指針や学習指導要領では、「変化の激しいこれからの社会を生きる力」を習得することが課題となっております。背景には誰かに言われないと動けない子どもの指示待ちの問題があります。ヨーロッパでは主体性を高めるため、子どもに自分で何でも選択をさせます。それを専門性にまで高めたのが、コダーイやモンテッソーリやシュタイナーの教育です。

大人が「〇〇しなさい」と指示しすぎると指示がないと動けなくなり、大人が関わったときだけしか成長できなくなります。自分で意欲的に環境に関る子どもは、常に成長する機会があるので、その差はどんどん大きくなります。

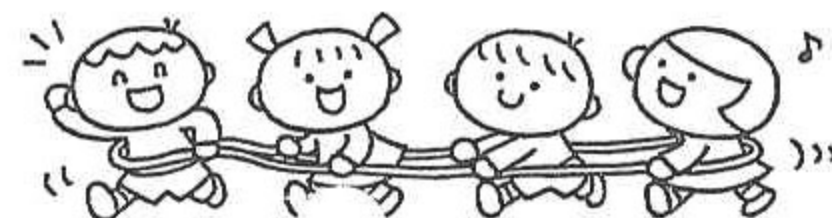
主体性は乳児期の丁寧な関わりにより育ちます。例えば乳児は排泄と食事は自分だけではできませんので大人が手伝いが必要ですが、1対1でじっくりと子どもに接すると、待っていれば必ず自分の順番が来るという大人への信頼感が育ち、それが自己肯定感となり、思いやりの心の基礎となります。

次が身体機能です。例えば乳児の食事を大人が介助するとき、スプーンを子どもの口の前で止め、自分で食べるのを待ちます。すると子どもは自分の主体的な“意思”で口をスプーンへ持って行って食事をします。オシメ交換を例にとると、高いオムツ交換台は大人が子どもを抱き上げないと使えませんが、低い交換台では子どもが排泄したいときに自分で歩いて行って腰掛けることができます。自分が“したい”ということと大人に“協力”するという主体性を持つことができます。

また、子どもは上手くできないときほど一番やりたいときです。そのときが最も成長するときでもあります。例えば手洗いで水をたくさんこぼしたとしても叱らないでさりげなく大人が拭いてあげることで、水道の出し方を覚え上手に手洗いができるようになりますが、叱ってしまうと一人でできなくなる恐れがあります。失敗を見守り、失敗したときは大人がさりげなく片付けることで、環境に関りながら自らを成長させる主体的な子どもに育っていきます。

保護者と保育園が協力し、手をつなぎ大きな輪になって、子どもの成長を楽しみながら保育していきましょう。

★工事のお知らせ 子ども主体の環境作りのため工事を実施します。園庭のゴムチップ舗装、ひよこの工事を予定しております。工事中はご迷惑お掛けしますがご協力お願い致します。



4月の行事予定

- 1日(水) 入園式
- 3日(金) 避難・消火・救急訓練・防犯育児講座
- 8日(水) 始業式
- 13日(月) カプラ積木ワークショップ(開放行事 10:00~11:00)
- 15日(水) 体操教室正課、ECC英語正課(5歳児)開始
- 17日(金) 新入園児レンタル布団申込締切日
- 18日(土) きりん組 竹馬作り参観 参観終了後、担任がお泊り保育の下見にいきますのでお迎えにご協力下さい。

- 23日(木) 4月生まれ誕生会 年払い割引申込締切
- ・文字指導 5歳児原則水曜日※行事の関係で変更することがあります。

職員紹介

園長 森川雅行 事務長 森川美希 主任 松葉茂美 事務 上芝裕子

ばんび1組0歳 井元千月、立端恵子、清水裕加里、

ばんび2組1歳 河本しのぶ(未満児主任)、川口加菜子、佐治美佐子、谷村広子

ひよこ組2歳 栗田千恵子、藤川みさち、関雅宏、上床民子、久保真理子、大山まなみ

うさぎ組3歳 竹崎陽子、尾瀬洋子、谷村早百合

りす組4歳 熊山智子(以上児主任)、廣瀬裕美、和田久美

きりん組5歳 山畑恵子、平岡千歳、延寿フミ子

こあら組一時・特定保育 万木真代、舟岡里佳、白井好栄(看護師)、

フリー 上領みゆき

ばんだ延長保育 岸きよ子、市川千枝子、千崎一美、岡崎妙子、岡紀代子

らっこ調理室 岡嶋和代(調理チーフ)、福山育子(栄養士)、成田美英子、吉野登美子

シルバーさん 坂口政文、林利雄

文字指導 藤原史子 音楽 笹川郁子 体操 羽根田宇一郎 ECC正課 廣瀬恵 ECC課外衛藤千絵

延長保育料金の扱い

門から退出された時間によって料金をいただきます。開園時間内のご退出にご協力ください。

送り迎えは保育室まで来てく

ださい子どもの生活を知っていただくため送迎はクラスまでお願いします。

保育の基本方針

1. 子ども一人ひとりを重視し、個人の成長に合わせた支援を行う。
2. 思いやりの心を育て、人権を大切にすると、人のために行動できる意欲、心情、態度を養う。
3. 「遊び」のなかで自分を見つけ、「遊び」を通じて相手を理解する気持ちを養う。
4. 子どもには情緒の安定がもっとも大切であるとの理念のもと、乳児では担当制の中で基本的生活習慣が自律する段階をふまえ安心感を与える保育をし、幼児では自ら集団や環境にかかわりながら成長していく主体的な子どもを育てる保育を行う。

